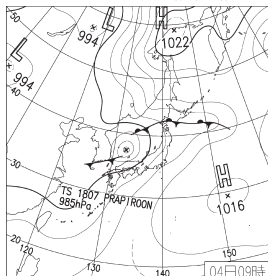


日々の天気図

— No. 198

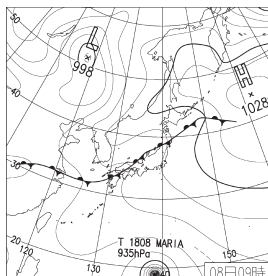
2018年7月

- 1～8日、「平成30年7月豪雨」前線や台風第7号の影響で西日本を中心に記録的大雨、各地で河川氾濫等発生、死者・行方不明者多数。
- 23日、埼玉県熊谷で歴代全国1位の41.1℃。西～北日本で猛暑続く。
- 28～30日、台風第12号が本州・九州を異例の西進、各地で強風等襲。 (気象庁予報部予報課)



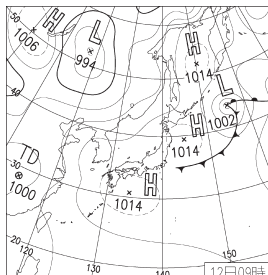
4日(水) 広範囲で強い雨

台風第7号は15時温帯低気圧に、マリアナ諸島では台風第8号発生。前線や湿った風の影響により西日本～北日本の広い範囲で雨となり、沖縄県仲筋では129 mm/1hの猛烈な雨。



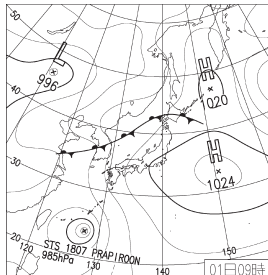
8日(日) 四国にも大雨特別警報

梅雨前線の活動が活発で西日本～東海や北陸～東北は引き続き雨や曇り。愛媛県や高知県に特別警報発表、高知県宿毛と岐阜県金山で108 mm/1hの観測史上1位となる猛烈な雨。



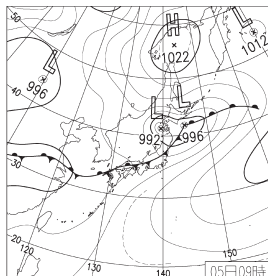
12日(木) 関東で非常に激しい雨

日本付近は高気圧に覆われたが、上空寒気の通過や日中の気温上昇により、九州～東北部で大気の状態が不安定。埼玉県鳩山55.5 mm/1hなど局地的に非常に激しい雨。



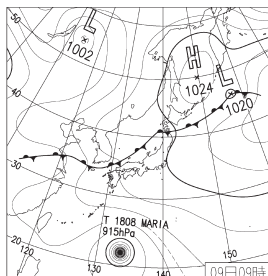
1日(日) 局地的短時間大雨続く

湿った空気の影響で西～東日本太平洋側の一部で雨。岐阜県樽見では75.5 mm/1h、台風は沖縄本島の南を北上。沖縄県度良間で最大瞬間風速37.0 m/s、北海道は前線の影響で雨。



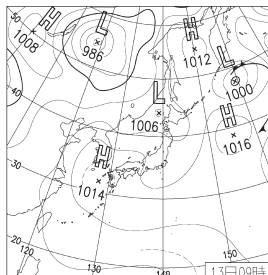
5日(木) 九州北部豪雨から1年

北海道付近の低気圧や北日本から九州にのびる前線、及び暖かく湿った空気の影響で全国的に雨。沖縄県城辺で史上1位111 mm/1hの猛烈な雨。日降水量は高知県魚梁瀬で469 mm。



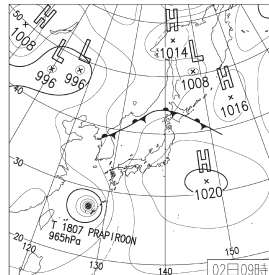
9日(月) 広い範囲で梅雨明け

太平洋高気圧が日本付近に張り出し、梅雨前線が北日本付近まで北上。九州北部・中国・近畿・東海・北陸で梅雨明け発表。北海道は前線の影響で曇りや雨、本州の内陸は熱雷雨も。



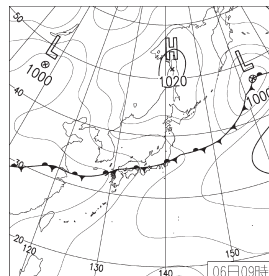
13日(金) 西～東日本は猛暑

北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。沖縄・奄美～東日本は高気圧に覆われ晴れ。全国35の都府県で高温注意情報を発表。福岡県久留米で最高気温36.4℃をはじめ48地点で猛暑日。



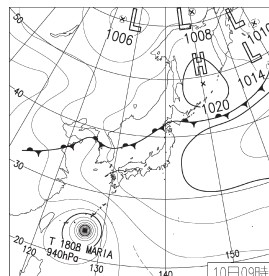
2日(月) 青森県で震度4

台風第7号の影響で沖縄・奄美と九州の一部は大荒れ。沖縄県粟田の日最大風速25.5 m/sは7月1位。暖かく湿った空気が流入した西日本太平洋側や前線に近い北海道でも雨。



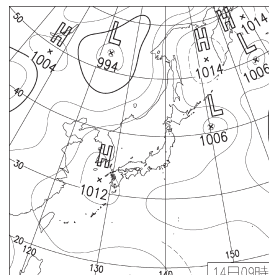
6日(金) 西日本に大雨特別警報

長崎・佐賀・福岡・広島・岡山・鳥取・兵庫・京都の8府県に発表。本州付近に停滞する前線の活動が活発。日降水量、高知県本山510.5 mmは観測史上1位の値、佐賀県北山でも422.5 mm。



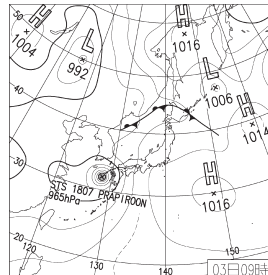
10日(火) 四国で梅雨明け発表

台風第8号の影響で先島諸島は大荒れ。北日本は前線の影響で曇りや雨。その他の地域は晴れたが、東日本では午後には雨や雷雨の所も。大分県日田で36.6℃など所々で猛暑日。



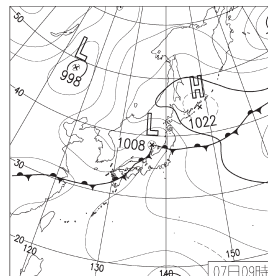
14日(土) 各地で猛暑続く

沖縄は上空の寒気の影響で所々で雨。西～東日本から東北部にかけては高気圧に覆われ晴れ。東北南部の梅雨明けを発表。岐阜県多治見の38.7℃をはじめ161地点で猛暑日に。



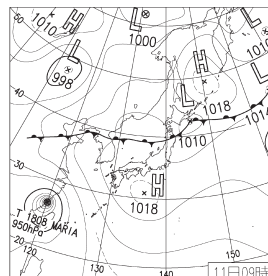
3日(火) 台風第7号東シナ海上

九州中心に大荒れ。長崎県頭ヶ島最大瞬間風速42.2 m/sは史上1位。沖縄・奄美は雨が続き、沖縄県北原90 mm/1hは7月の記録更新。前線の影響が続く北海道は一部で激しい雨。



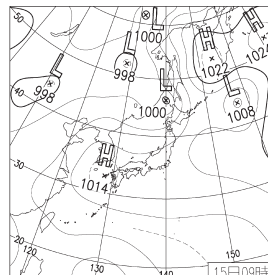
7日(土) 西日本など記録的大雨

岐阜県にも大雨特別警報。岐阜県御母衣の日降水量330.5 mmは史上1位。一方、オホーツク海高気圧からの冷たい空気の流入が続く北日本は、最高気温4月下旬～5月並の所も。



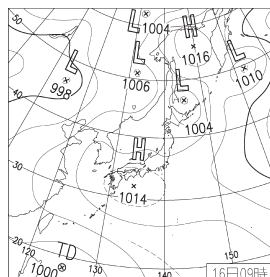
11日(水) 九州南部梅雨明け発表

前線の低気圧が北海道付近を東進。北海道を中心に東北でも雨。北海道斜里の日降水量57 mmは7月1位の値。西～東日本は晴れて午後には大気不安定、岡山県下皆部50.5 mm/1h。



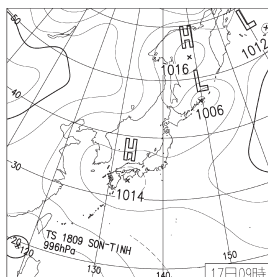
15日(日) 西～東日本は連日猛暑

北海道は低気圧の接近で雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。京都府福知山や岐阜県揖斐川で38.8℃など、全国200地点で猛暑日となり、12地点で最高気温の史上1位を更新。



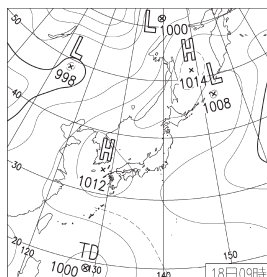
16日(月)岐阜県揖斐川39.3°C

西～東日本は高気圧に覆われて晴れ。全国186地点で猛暑日。栃木県奥日光30.4°Cは1944年の統計開始以来1位の高温。北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。北海道で震度4の地震。



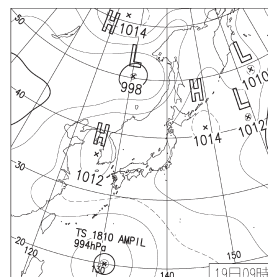
17日(火)茨城県で震度4

太平洋高気圧が西日本に張り出し、全国的に晴れの天気。岐阜県揖斐川で38.9°C、京都で38.1°Cなど気温上昇。全国149地点で猛暑日を記録。南シナ海で台風第9号が発生。



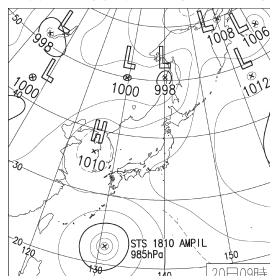
18日(水)岐阜県で40°C超え

西～東日本は高気圧に広く覆われ晴れて気温が上がり、岐阜県多治見で40.7°C、美濃で40.6°Cの最高気温を記録。東北北部や北海道太平洋側は曇りや雨で気温上がらず。



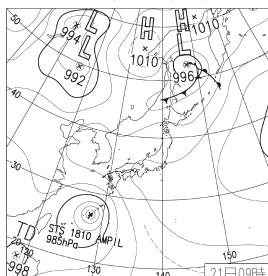
19日(木)京都で1位タイの高温

沖縄・奄美は暖かく湿った空気により雨。北海道太平洋側も湿った空気で見舞。その他は太平洋高気圧に覆われ概ね晴れ。最高気温は京都の39.8°Cなど12地点で史上1位がタイ。



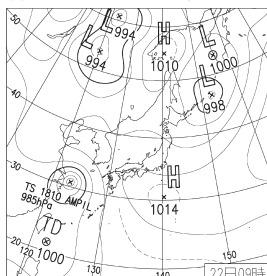
20日(金)東北北部梅雨明け発表

台風第10号や湿った空気の影響で、沖縄や西日本太平洋側は曇りや雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。兵庫県豊岡で38.9°Cなど全国201地点で猛暑日。北海道は所々で真夏日。



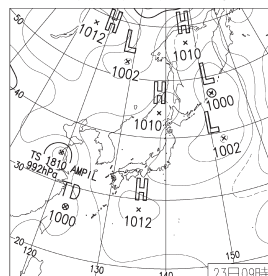
21日(土)台風が沖縄本島を通過

台風第10号は東シナ海へ、奄美中心に大雨で鹿児島県天城の73.5mm/1h、日降水量238.5mmは共に7月1位。九州や四国も一部雨。京都府舞鶴と鳥取県鳥取では最高気温38.2°C。



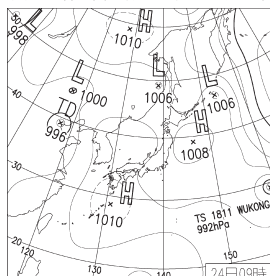
22日(日)全国237地点で猛暑日

高気圧が西日本中心に張り出し全国的に気温上昇。岐阜県八幡の最高気温39.8°Cは史上1位。東北は最低気温も高く平年差+6°Cの所も、湿った空気により九州や沖縄・奄美で雨。



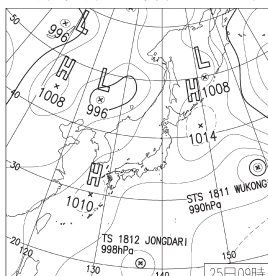
23日(月)最高気温史上1位熊谷で

高気圧に覆われ西～東日本は猛暑続く。猛暑日242地点。観測史上1位が21地点。最高気温は埼玉県熊谷41.1°Cをはじめ40°C以上が4地点。一方、北日本は6月並の気温の所も。



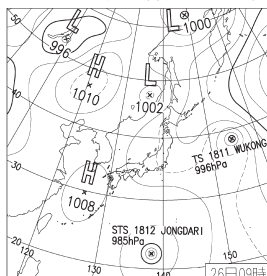
24日(火)猛暑うんざり

高気圧に覆われ西～東日本で猛暑となり岐阜県美濃で39.3°Cなど全国211地点で猛暑日。一方、北日本は寒気の影響で最高気温が平年より低い所も。台風第12号発生。



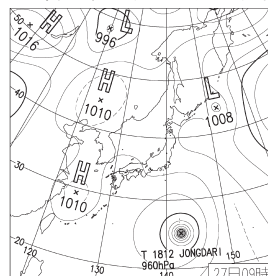
25日(水)猛暑いつまで？

広く高気圧に覆われ、全国的に晴れや曇り。午後には東海などで局地的な雷雨。山口の最高気温38.8°Cは、1966年の統計開始以来1位。西日本～東海で厳しい暑さ続く。



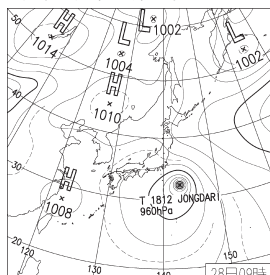
26日(木)西日本中心に猛暑続く

関東や北海道太平洋側などでは湿った空気の影響で概ね曇り。その他は晴れ。西日本では4割を超す地点で猛暑日。京都の最低気温28.7°Cは1880年の観測開始以来1位の高温。



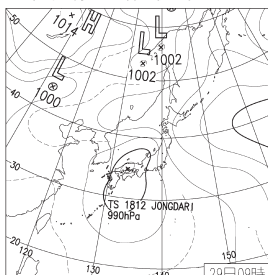
27日(金)暑さ続く

高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ。北日本も気温上昇。北海道下川は7月1位の最高気温32.7°C。東北も含め全国59地点で猛暑日。午後は九州中心に大気不安定で激しい雨の所も。



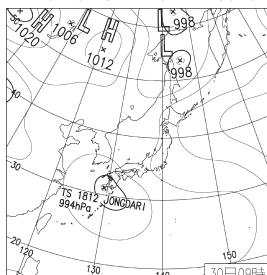
28日(土)台風第12号関東接近

台風は八丈島の東から東海道沖へ北西進。東海～関東は大荒れ。東京都三宅島で最大瞬間風速39m/s、青ヶ島44mm/1h。晴れた地域は気温上昇し、九州や新潟県では猛暑日の所も。



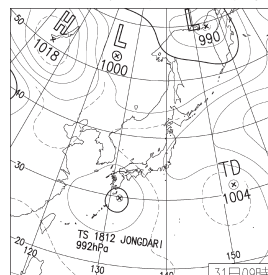
29日(日)台風第12号三重県上陸

台風は1時頃三重県伊勢市付近に上陸後西進。東海以西で大雨。奈良県曽爾で93.5mm/1h。台風東側の南風で北陸中心にフェーンとなり新潟県大潟の最高気温39.5°Cは史上1位。



30日(月)台風、屋久島付近へ

台風第12号や湿った空気の影響で西日本太平洋側を中心に雨。その他は高気圧に覆われ晴れや曇り。石川県かほくで37.7°Cなど、西日本～北日本の日本海側で猛暑日続く。



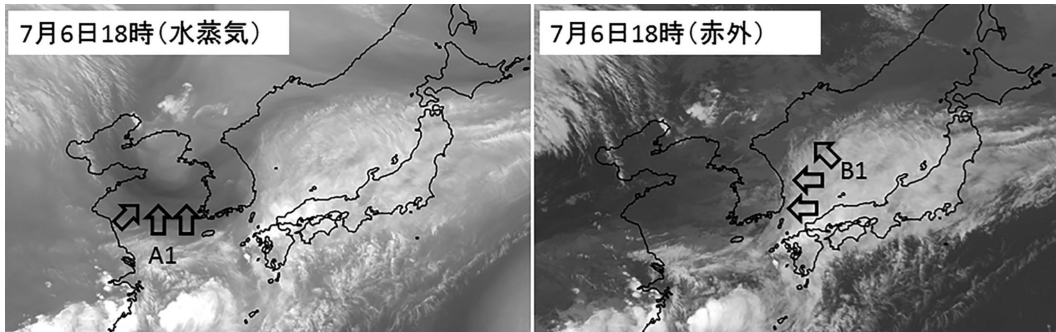
31日(火)台風第12号再発達

台風は種子島付近を西へ進み、夜には中心気圧985hPaに。九州南部では日降水量100mmを超す大雨。中国、近畿～北日本は概ね晴れ。北海道雄武の最高気温35.2°Cは史上1位の値。

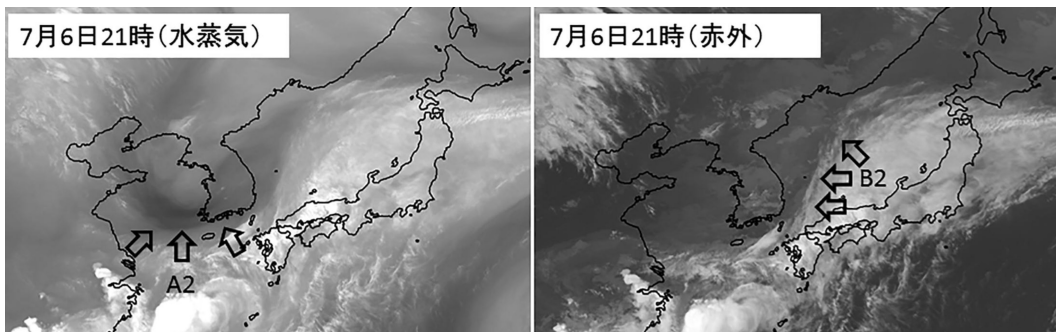


今月のひまわり画像—2018年7月

平成30年7月豪雨



第1図 2018年7月6日18時（日本時間）の水蒸気画像（左）、同時刻の赤外画像（右）、記号は本文参照。



第2図 2018年7月6日21時の水蒸気画像（左）、同時刻の赤外画像（右）、記号は本文参照。

2018年6月28日以降、華中から日本海を通して北日本に停滞していた前線は7月5日には西日本まで南下し、その後停滞した。前線や台風第7号の影響により、日本付近には暖かく湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。特に、岡山県倉敷市では6日の深夜から7日の未明にかけて小田川の堤防が決壊し、付近の住宅地が大規模に冠水、死者52人というこの一連の豪雨災害の中でも最大規模の被害が発生している。今回はこの倉敷市で災害発生した時刻の状況を衛星画像で振り返ってみたい。

倉敷のアメダス観測によると、それまで10 mm前後だった1時間降水量が、6日21時（日本時間）以降急激に上昇していることがわかる。この日は黄海付近にあった500 hPaの5820 m付近のトラフが東進していた。このトラフは進行前面には強い正渦度の移流があり、6日21時頃には、この強い正渦度の移流の場が、ちょうど九州～四国～中国～近畿地方付近に達していた。第1図（左）は6日18時の水蒸気画像、第1

図（右）は同じ時刻の赤外画像である。A1の矢印で示したように黄海には上層トラフに対応する水蒸気バウンダリがあり、B1の矢印で示したように対馬海峡付近からは高気圧性に湾曲したCiストリークが発生している。第2図（左）は同日21時の水蒸気画像、第2図（右）は赤外画像である。A2の矢印で示したとおり水蒸気バウンダリの南端はチェジュ島付近まで南東進し、B2の矢印で示したとおりCiストリークの発生点は山口県付近まで進んできている。

これらの衛星画像から6日後半から7日にかけての中国、近畿地方の大雨は、気象庁が8月10日に発表した報道資料にも記されているとおり、朝鮮半島付近にあった上空の気圧の谷が急速に深まりながら東へ進むにつれて停滞する前線上にメソ低気圧が発生し、西日本へ南からの水蒸気の流入が強化されるとともに、上昇流の励起も強まったことにより発生したと考えられる。

（気象庁予報部予報課 野中信英）